

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

7	地域行政の取り組みの実際と課題(5) 「地域おこし協力隊事業（富士河口湖町本栖地区の活性化）」についての講義を聴く。 質疑応答	10月20日 [担当] 坂本宏史 [講師] 中原 崇	講義	講義後出題される小テストに解答する。講義から、課題を抽出し整理する。	4
8	地域連携の実際(1) 地域社会における女性の活躍の事例を通してこれからの地域振興のあり方を講義する。	10月27日 [担当] 坂本宏史 堤美智	講義	講義後出題される小レポートを提出する。講義から、課題を抽出し整理する。	4
9	地域連携の実際(2) 地域社会における家族の変化と地域連携について事例を通して講義する。	11月3日 [担当] 坂本宏史 堤美智 [講師] 堤マサエ	講義	講義後出題される小レポートを提出する。講義から、課題を抽出し整理する。	4
10	地域連携の実際(3) 地域の観光振興と具体的な観光事業のあり方について事例を通して講義する。	11月10日 [担当] 坂本宏史 堤美智 [講師] 船木上次	講義	講義後出題される小レポートを提出する。講義から、課題を抽出し整理する。	4
11	地方行政/地域連携に関わる課題の調査・研究発表準備	11月17日 [担当] 坂本宏史	グループワーク	課題の調査	4
12	地方行政/地域連携に関わる課題の調査・研究発表準備	11月24日 [担当] 坂本宏史	グループワーク	課題の調査	4
13	地方行政/地域連携に関わる課題の調査・研究発表準備	12月1日 [担当] 坂本宏史	グループワーク	課題の調査	4
14	調査・研究発表会①	12月8日 [担当] 坂本宏史	グループワーク	他のグループ発表の評価	4
15	調査・研究発表会②	12月15日 [担当] 坂本宏史	グループワーク	他のグループ発表の評価	4
試	期末試験は行わない 達成度評価、評価のポイントを参照				

達成度評価

総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		49	21	30	0	0	100
総合力指標	知識・技術力	39	5	5	0	0	49
	思考・推論・創造する力	5	5	5	0	0	15
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	5	5	0	0	10
	コミュニケーション力	0	0	5	0	0	5
	取組みの姿勢・意欲	0	3	0	0	0	3
	問題を発見・解決する力	5	3	5	0	0	13

評価のポイント

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
試験	①	講義「地域行政の取り組みの実際と課題(1)~(6)」終了時に、内容についての小テスト(クイズ)を出題する。各7点、小計49点満点(全体の49%)	対面講義時間内に Teams 上で出題する。採点后返却する。講義内(第10)に講評をおこなう。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
レポート	①	講義「地域連携の実際(1)~(3)」終了時に、専門家の講話をまとめ、感想を記述する(3回)各7点、小計21点満点(全体の21%)	レポートの添削・評価をして返却する。
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
成果発表	①	発表のテーマと内容について、客観性、論理性、独自性、発表技術を、ルーブリックを用いて評価する(25点満点)。さらに、学生間の評価(5点満点)を加え、30点満点とする(全体の30%)	結果の講評を Teams 上で行う。
	②		
	③		
	④		

【2026 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

	⑤			
	⑥			
ポートフォリオ	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
その他	①			
	②			
	③			
	④			
	⑤			
	⑥			
備考				
他 担 当 教 員	堤 美智、特別講師〔渡辺 和樹（富士河口湖町政策企画課）、三浦 貴洋（富士河口湖町観光課）、宮下 みほ（富士河口湖町福祉推進課）、藤江 美怜（富士河口湖町健康増進課）、杉本 悠樹（富士河口湖町生涯学習課 学芸員）、中原 崇（元地域おこし協力隊）、堤 マサエ（山梨県立大学名誉教授）、船木 上次（萌木の村株式会社 代表取締役）、五十嵐 雅彦（FC ふじざくら GM）〕			
教員の実務経験	富士河口湖役場で町の行政を担当する職員や、地域おこしを実践している元役場職員（地域おこし協力隊）、八ヶ岳南麓の活性化に尽力 している団体の代表 船木 上次 氏、家族社会学の専門家 堤 マサエ 氏を特別講師として迎える。また専任講師の堤 美智 准教授は、地域経済の振興についての専門家で、国内外の事情に詳しい。			
実践的授業の内容	地域行政や地域連携の実際に関する講義から、グループワークで課題を抽出し、自分たちで調査することで実態の理解を深めたうえで、対応策などを発表する。			
そ の 他	受講者の数により、授業内容「調査・研究発表会」は第 15 回のみとし、第 14 回は「発表準備」に変わる可能性がある。 授業回に入れ替えや講義日を変更する場合がありますので注意すること。 また、今後の感染症などの社会状況によって再度シラバスが変更される可能性がある。			